



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2024年4月7日

No. 119

イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。
だれを捜しているのか。」

ヨハネによる福音書 20 章 15 節 ・ 新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

行って、あなたも同じようにしなさい。

ルカによる福音書 10 章 37 節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



「隠されたる神」。ルターは主なる神について、次のように言い表しました。「神の業は成ったときですら、かならず隠されており、理解されずにおる。しかし、それはとりもなおさず、われわれの理解あるいは思いに矛盾する相貌のもとにのみ隠されているのである。」難しい表現ですが、第一に神の御業は実現した時にも、必ず隠され、理解されないということ。第二にそれは私たち人間の理解や思いに矛盾しているように見え隠されているということです。これを復活に重ねてみますと、次のようになるでしょう。「復活という神の御業は、それが実現した時ですら、必ず隠されており、復活の朝になっても人に理解されない。それは私たち人間の理解や思いに矛盾する様子の中に隠されているからである」。つまり神の御業はいつも矛盾しているように、あるいは無意味であるように見える。それは私たち人間がその常識や経験に基づいて理解しようとするためであり、そのような私たちの目に、神は隠されているというのです。

隠されたる神について、ルターは次のように言っています。「われわれの肯定をすべて否定せずには把握されない神」と。つまり私たちがそうだと思っていることを、すべてそうではないと否定しなければ、神を理解することはできないと言うのです。私たちが人間の常識を否定できずに神に向かうため、隠されているのだということでしょう。主の復活を知るために、私たちは十字架の死を遂げられたイエスは墓の中に、言うなれば人間の限界の中におられるという、私たち人間の常識に基づく肯定をすべて否定することが欠かせないということなのです。また次のようにも言っています。「神の否定の下に、また否定の上

に、深い隠された肯定（がある）」と。つまり、私たちが死を超えられることのない限界と理解し、そのため墓に向かうことしか知らないという現実をすべて否定してしまわないことには、神を、復活の主を見いだすことが出来ないほど、神の御業は隠されているということなのです。

墓の前で泣いていたマリアに、天使たちが「なぜ泣いているのか」と言いました。マリアはすべての限界である死の象徴である墓の前で「わたしの主が取り去られました」と、イエスの遺体がないことを嘆いているのですが、天使たちはその遺体がないことを指して、涙する必要がないことを示しています。なぜなら復活という神の御業は私たちに隠されているのであり、それを受け止めるために、私たちが当然と思うことをすべて否定する必要があったのです。マリアは後ろを振り向く必要があったということです。「後ろ向き」ということは、私たちからすれば否定的な生き方に見えるでしょう。無駄な時間を費やしているかのように映るでしょう。後ろ向きに生きる者を見て、人は「前を向くように」と励まそうとするでしょう。しかしそもそも私たちが向かっている墓に象徴される人間の限界、それに基づく悲しみであるのですから、それをすべて否定して後ろを向くとは、神の御心に適っているのであり、本来の前を向くということなのです。私たちもマリアと共に、人生の中で振り向き、日々の生活における誤解と、それからもたらされる涙とを拭われるのです。それが週の初めの日の礼拝の時であり、泣きたくなるような現実の中から復活の主の呼びかけに、振り返って、新たに解放されて生きるのです。（主の復活）

●はじめまして ○原○子

主の御名をほめたたえます。

この度は、佐藤先生、教会員の皆様から心から感謝致します。

私は足立区鹿浜で生まれ父方の近くで小三までおりました。小四で母方の川口元郷に引越しました。

千住大橋方面～荒川大橋迄土手を歩いて行ける所です。

元郷の家からは東京駅行きのバスが通っていました。

母はいつも元気なのですが、喘息発作が出ると先生の往診がありました。

中三の秋、父がバイク事故で入院となり、その三ヶ月後母が突然亡くなり、卒業式・入学式は伯母に出席していただき、何とか生活しておりました。

鹿浜の家が高速道路の為立ち退きとなり、川口安行へ引越しました。

我が家も数か月後に川口安行へと引越しました。私は就職せずに家事をする日々を送っておりました。

20歳のときにイエス様を知ることができ、キリスト教赤羽伝道所 TEAM 宣教団パーカー先生より洗礼を受けることができました。

父・親類には内緒です。大変な生活の始まりです。

25歳の時ボランティアで出会った先生から、うちの施設で働いて下さいとのことです。

私にとってこの五年間が学びの時であり、楽しい日々でありました。沢山の愛をいただき神様に感謝いたします。CS 礼拝初日、佐藤先生と娘さんを見て、母を亡くした頃のことを思いました。

父は39歳、妹は小三でいつも一緒でした。月日の流れを感じました。

どうぞ皆様よろしくお願い致します。

●キリストの十字架 尾○松○

キリストの十字架をどのように解釈し、受け止めれば良いのか、イエスの死後まもなくパレスチナに成立した原始教団においても混乱した様子を今日に伝えている。

エルサレム神殿が崩壊し、ユダヤ戦争が70年に集結し、ほぼ10年後に編纂されたマタイ福音書は、十字架の刑死を予告するキリストの言葉として、「これは、罪の赦しを得させるようにと、多くの人のために流す私の契約の血である」(26章:28)と、救いはキリストの血による契約によって成立し、十字架は罪の赦しを得させる贖罪死である、と明言している(1)。

一方「これは私の血、多くの人のために流される契約の血である」(マコ14章:24)というのが、60年代成立のものとするマルコ福音書の関連記事だが、そこでは人の子の到来の目的は「多くの人を贖いとして、自分の命を与えるため」(10章:45)となっており「罪の赦しを得させる」という贖罪の文言が見当たらない。

他方、「あなた方(弟子たち)のために流される私の血である」(22章:20)というのがルカ福音書である。

つまり、マルコ福音書同様イエスの十字架の刑死が、罪の赦しを得させる贖罪死になっていないのである。

共観福音書の殿(しんがり)を務めたヨハネ福音書(2)に至っては、堅く口を閉ざして語らないので、後代の教会形成に決定的影響を与えた贖罪論は四つの福音書ではマタイのみである。(次月号に続く)

(1) 荒井献著『「同判者」イエス』新地書房 1989年 332頁 マルコ福音書には「罪の赦しを得させる」という一句がない(十:45)

(2) 成立年代は、紀元90~110年までの間と推定されている(フランシスコ会)。

●女性会だより

3月17日 14名出席

司会、祈り ○山姉

1 聖書の学び

マタイによる福音書 12章47節

聖書には系図が多く書かれている。神様の示す系図と人の系図は違う。

神様の約束のもとに生きるのが、最も大切であり、同時に御心に耳を傾ける事が人の行いより、大切である。

2 女性会例会

第25期連盟総大会について

テーマは「イエスのまなざしと出会う」
神さまに、隣人に、そして社会に仕える。

講演会 平良愛香氏（日本基督教団川和教会牧師）

東教区女性会検討委員会立ち上げについて／情報交換について／女性会に参加できない方々への女性会としての対応について

次回例会は4月21日

●牧師室より



イースターおめでとうございます。主の復活の喜びが、すべての人々に届けられますように。

4月に入り、新しい生活が始まる季節となりました。皆さんの周辺でも、新生活を始められた方がおられるかもしれません。牧師も異動の季節で、地区でも新たに牧師を迎えた教会があります。それぞれの歩みが祝福されますように。中でも小田原教会は、この一年間、牧会委嘱者として定年教師の長岡立一郎先生をお迎えいたします。5月の後半に着

今月、受洗記念日を迎えた方々

1日 菊○○美子姉 6日 ○瀬○恵姉、○山○明兄 7日 プラ○○○梨姉 8日 吉○○人兄 10日 ○田○子姉、○川○子姉 11日 ○野○治先生、○林○実姉、○内○司兄、○井○姉、○林○和兄 12日 ○野○子姉、○野○兄 14日 ○田○兄、田○○子姉、○山○姉、○木○子姉、○藤○理姉 15日 ○野智○子姉、上○○秀兄、三○○葉姉、○山○一兄 20日 秋○ゆり○姉 21日 ○井○子姉 22日 ○山○み姉 23日 ○井○姉



おめでとう
ございます。

わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう
「行って、あなたも同じようにしなさい。」
ルカによる福音書10章37節

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから



任予定です。佐藤牧師が主管者（「責任者」ということですが、近隣の現役牧師が担当します）となり、4月、5月には各一回、礼拝を担当いたします。留守礼拝（4/28、5/26）は、杉本洋一先生が担当してくださいます。お楽しみに！

4月より佐藤牧師は、藤が丘小学校PTA会長としての奉仕を始めます。地域コーディネーターとあわせて、藤が丘教会宣教目標である「地域に仕える教会」に沿った働きであることを、ご理解いただき、お祈りいただければと思います。

信徒の皆さんの中にも、ご病気等の理由で教会に集えない方々も多くおられるでしょう。教会として、皆さんのところに赴き、礼拝をともに出来ればと思っています。ご希望の方はお申し出ください。（佐藤）



👉スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。

星野姉を想う

齋藤幸子

2007年、7月右足、10月右手を思わぬ骨折をしてしまい、電車で溝の口から渋谷へ、そして山手線に乗り換えて新大久保の東京教会への電車を通うのが不安になり、何処か近くの教会はと教会手帳で調べると藤が丘教会が目に入り、電話で場所を聞き11月25日教会の前に。入り口で中の様子を伺いウロウロしていると、笑顔で会釈して招き入れて下さったのが星野姉でした。右手包帯のまま字が書けず海外派遣の時に使った名刺を出し自己紹介すると、小副川牧師共々中へ案内された。その日から16年、こちらでお世話になっていますが、教会遍歴は長くても新参者で緊張している私に「東京教会はどうでしたか」とかいろいろ話して下さい、緊張をほぐし温かいぬくもりを下さった。話し上手で聞き上手。私の話をぐいぐい引き出し時には代弁して下さい。圧迫骨折をしたとき、ご自分の体のころもあったでしょうに、電話で安否を気遣って下さった。

五体満足が不満足となり、コロナもあって礼拝欠席がおおくなり、なかなかお会いでき



ませんでした。訃報の連絡を受けた時「エーッ！」何も知らなかった私は驚くばかりでした。バザーの時、コンクリートの上に敷物を敷き、立ったり座ったりして衣類を売っていた姿が、目の焼きついています。会えば「どうですか」といた外の表情を見て安堵してました。本音で語り合えた星野姉の姿が見えなくなるのは寂しく、悲しさひとしおです。

星野淑江様へ

江越倫子

30年前に転勤先から戻り、三女の幼稚園探しを始めた時、雪谷ルーテル幼稚園の名前を見つけ、すぐに三女と幼稚園の面接に行きました。初めての幼稚園に興奮した娘と緊張した私を迎えて下さったのが淑江先生でした。「こんにちは。お名前は？」と優しく言われた事を今でも覚えています。幼稚園年少組に入った娘は毎日幼稚園に行くのが楽しみで、毎朝、幼稚園の門の所で「淑江先生、おはようございます。」と挨拶をし、淑江先生と握手をしたり、周囲を跳ね回ったり、時には星野家の愛犬「バウちゃん」のいる牧師館に行きました。

たくさんの思い出がよみがえります。ルーテル幼稚園には2年間しか通園しませんでした。長女も次女もSに通い、英語を教えて頂きました。

母が亡くなり、星野牧師に葬儀の司式をして頂いた事から、藤が丘教会を紹介されて、2003年全聖徒主日に初めて藤が丘教会を訪れました。知り合いも星野牧師ご夫妻だけの私がポツンとしないように気を遣って頂き、感謝しかありません。淑江先生に導かれたからこそ、私は神様と出会い、重富先生や信徒の皆様にも出会い、信仰の扉を開き、受洗しました。辛い時、心が折れそうな時も寄り添って下さり、励まされました。小さな声に耳を

傾け、辛い思いや悩みのある方のもとへ行き、お話しを聞いてくださり、心をほぐして下さる方でした。

時々のお電話では厳しいご意見も頂きましたが、最後は懐かしい幼稚園の事、家族の事を話して、二人で大笑いをしたことを思い出します。

6月末の春の女性会の集いにも元気に出席し、サバの神学校のお話しもされていたお姿が今、目に浮かびます。とっても悲しく、寂

わが同胞（はらから）」

尾形松壽

ルターを最も初期に日本へ紹介した人物に内村鑑三（1861-1930）がいる（1）。

その内村に「初夢」という文章がある（2）。日本を中心にまとめられた、そのストーリーはしばらくの間不人気であったが、こんにち国際社会におけるわが国の立ち位置や期待される役割を考えると、「初夢」をもう一度見直す必要を感じる。

1549年、フランシスコ・ザビエルが宣教目的で来日したが、日本を選んだ理由は、マラッカ（マレー半島）で会った日本青年の才能であったと言われている。

ザビエルは青年を聖パウロ学院に送り込んで教理を学ばせ、準備万端ととのえて日本本土に上陸した。

時代が下って明治に入り、日露戦争の勝利は、日本国民に大きな驕りを生じさせた。

1941年に始まる「アジア・太平洋戦争」では、近隣諸国に甚大な被害を与えた。

戦時下では、多くの青少年が兵士として戦場に送り出され、敗戦後は海外から侵略者の烙印を押された。

わが家では兄が戦死、その知らせに泣き崩れる母の姿を覚えている。

日本の侵略に遭った隣国の人々の悲しみは

しいです。

もう一度、一緒に藤が丘教会の礼拝に出席したかったです。長い間、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

今頃は、神様のもとで先に召された兄弟姉妹と共に積もるお話しをなさっている事と思います。

ご家族の上に主の慰めがありますように。

どれ程のものであったか、計り知れないものを感じる。

いま、ウクライナとロシア、イスラエルとハマスの紛争で双方に多くの死者が出て、双方の家族も同じ悲しみに見舞われている。今次の大戦によってわが日本国民はたつぷりと冷や水を浴びせられ、一億総懺悔となった。

一方、敗戦直後日本の統治を任されたマッカーサー元帥は解任された後、米国上下両院合同会議の演説で、

「私は日本国民ほど穏やかで、秩序正しくかつ勤勉な国民を他に知らない。人類の発展において、それほど建設的な意欲、高い希望をもった国民を他に知らない」（3）と、述べている。

退任されたもと元帥にとって、もはや日本国民にへつらう必要などないのだから、この言葉は彼の本心から出たものであろう。そうだとすれば、こんにち「人類の発展に建設的な意欲」を国際社会に向かって発揮するなら、内村鑑三の「初夢」も「正夢」に変換される時代となるであろう。

注釈（1）江口再起『ルターと宗教改革 500年』148頁 2017年

（2）『聖書之研究』1907年1月号『一日一生』3頁 教文館

（3）森恭三編『マッカーサー元帥の回顧』朝日新聞社 1964年5月29日

